

備える

一年A組 伊藤 吉宗

僕は、三月からずっと、学校に行くことを考えていました。四月になったら学校に通えると思っていました。四月にむけていろいろと準備をしてきたので、がっかりしませんでした。でも学校再開が五月だとすると、授業が遅れ、分からなくなるだろうと思いました。そこで僕は、中学校の勉強を分かりやすくするため、基本的な所を予習しておきました。そのおかげで、少し分かりやすくなりました。備えることは大事だと思いました。

休校期間に感じたこと

一年B組 工藤香里奈

三月、在校生がいない、歌も歌えない卒業式を終え、長い長い休校期間に入りました。そのほとんどは家で過ごす日々となり、待ち遠しかった入学式も二回の延期によって五月の実施となりました。外出する時はマスクを付ける、消毒をするなど今までとは違う生活に大きな戸惑いと不安を感じながら過ごした春でした。五月、無事に行うことができた入学式では久しぶりにみんなの顔を見ることができてうれしかったことを覚えています。今、みんなと学校生活を送れていることに感謝して生活しています。

あたりまえのありがたさ

一学年保護者 安達 和弘

三月初め、突然の休校宣言により、小学校生活は、予期せぬ形で終わりました。学校が休校になってからは、どうやってこの長い休みを乗り切っていくか、いつになったら学校が始まるのだろうかと考えていました。そして今、普段通りの学校生活を通して、娘に休校中ではない、人間としての成長を感じられます。今回のことにより、あたりまえの生活が、一番子どもを成長させてくれると気付くことができました。

変革の時代を生き抜く力

一学年保護者 前島登志広

まさかコロナ禍によって日常の風景がこんなにも変わってしまったとは。卒業、入学という思いに残るイベントを迎えようとしていた子ども達の不憫で、と思っていたのは親の方で、当の本人達は学校休校中もオンラインゲームという打って付けの武器を使いこなし、友達と密にコミュニケーションを取っていました。時代や環境が変わっても、それに合わせてしなやかに対応し、変革の時代を生き抜いていける頼もしい世代に期待大です。

コロナで変わった学校生活

三年A組 早坂 壮

先が予想できない状態で迎えた三年生。受検生ということもあり今後に対する不安は大きかった。僕は、臨時休校中、学校で配られた受検用テキストを進めることにした。「五教科のテキストを一日四ページする」という目標を立て、僕の挑戦が始まった。

自粛中本気で取り組んだこと

三年B組 柿崎 柀河

コロナウイルスで学校が急に休校になり、外にも出られない状況が続きました。三年生最後の駅伝や中総体が行われるか、とても不安でした。しかしこの自粛期間は自分にとってとても長い休みで毎日駅伝や中総体に向けて走り続けました。雨の日は家でトレーニングなど、できる限りのことをしました。結局、駅伝はなくなりましたが、自分の生活を見直す時間や勉強の時間など毎日習慣づける時間が増え、マイナスに捉えていたことがプラスに変わりました。そのおかげで、新しいことに挑戦しようとする気持ちがとても大きくなりました。

不安を自信に変えた日々

三学年保護者 加藤 貴子

あと四十二ヶ月：娘と一緒に生活できる時間です。小さい時は家族揃っての食事が日常でしたが帰宅時間が異なりだし難しくなりました。一斉休校になり朝食お弁当に夕食と揃っての食事は私にとって貴重な時間になりましたが娘にはきつと不安も焦りもあつたと思います。それでも中総体の為に毎日ランニング、受験に向けての勉強と計画を立て目標に向かい前を見てやるべきことをコツコツと努力し成長できた日々だったと思っています。

休校中での生活

三学年保護者 宮川 志保

新型コロナウイルス感染症で学校が休校になりました。その時期から我が家では田植えに向けて準備が始まります。そんな生活の中昂大は、進んで肥料散布の手伝いをしてくれました。二十kgの肥料袋を嫌な顔、疲れた顔をせずに軽々と持ち上げる姿には、驚きました。千二百俵！途中で根を上げることなく最後まで手伝ってくれ家族みんな感謝しています。家族一丸となった令和二年度の田植えでした。

日常と違うこと

二年A組 大泉 梨音

コロナで学校が休校して、家にいる時間が増えました。各県で多くの感染者がでていたり、感染対策のことを毎日ニュースで見てこまめに手洗いをしたり、外を歩かないようにしたりしました。

これからも吹活!

二年B組 那須 理子

吹奏楽コンクールを越え、アンサンブルコンテストを越え、演奏技術も先輩との仲良し度も少しずつ上がってきたことを感じて楽しみにしていた定期演奏会が中止になりました。休校になり、誰とも会えなかった時、部長だった先輩から「うちで踊ろう」の合奏をしないかという提案があり、動画を撮って送りました。完成したDVDを観て、会えなくてもつながれる仲間がいることに嬉しくなりました。学校が再開し、私にも先輩ができました。部員全員がつながれることを感じながら、これからも部活できたらなど思います。

楽しみが一つできるまで

二年C組 小川 真輝

トレーニンングを始めた時期は、中学一年生になってからだだった。そして休校の時期になったら家の中だけでなく、外でランニングするようになった。休校が始まってしばらくして、私はランニングで走る距離をたまに変えるようになった。これは自分ができるようになってきたのか実感しているようでそれなりに楽しく思っていた。この「実験」の記録は良くなっていき、それに伴い楽しくなり、休校が明ける頃には、これは私にとって一つの楽しみになっていった。

苦をのりこえろ

二学年保護者 安喰 幸子

あたり前だと思ってた予定行事が次々と無しになっていき、ため息が多くなる息子に逆の発想を提案してみました。この困難な体験をしたからこそ、できることへの喜びや感謝を知り、そして中学生の今だからやれることを考えたり等、前向きになるチャンスにしてみないかと話しました。どうやら息子の心の中に入れてくれたようで様々なチャレンジが始まり、良い話し合いができた思い出にもなったようです。

コロナウイルスによる休校・・・再開までの思い



3年

1年

2年

イングリッシュキャンプ